



# 照明普及会だより

第24号

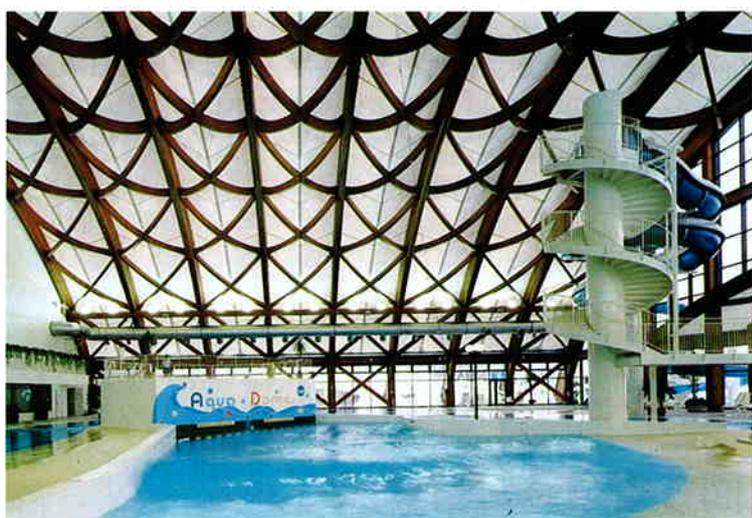
平成8年2月

発行・社団法人照明学会・照明普及会

〒100 東京都千代田区神田司町2-8-4

吹田屋ビル 3F

電話 (03) 5294-0101



野 沢 温 泉 ア リ ー ナ



## 照明の特長

テフロン膜と隙間をもたせて連続構成のX字状に組まれた補強材も美しく照明し、反射による間接照明まで初期照度平均256 lxを得ている。

所在地：長野県下高井郡野沢温泉村

## 施設の概要

屋内温水プールのアクアドームと国際会議場を併せもつ施設である。国際会議場は'95年1月に開催された「第15回インタースキー（世界スキー指導者会議）」のメイン会場になった。

アクアドームはアーチ型の木造集成材の骨組にテフロン膜を張ったドーム構造の空間に、流水プール、造波プールなどを備えたレジャー施設で、地域住民の健康維持、スキーヤーや観光の人々に新たな魅力を与える施設になっている。

## 照明施設概要（アクアドーム）

アクアドームの特長である白色の天井テフロン膜のドーム構造を、投光器のサイド配置による間接照明手法により空間全体をフラットに照明している。

照明器具は直管形2000Wメタルハライドランプ用前面格子ルーバ付角形投光器を、床上7m位置の横木上に柳角約45°で5m間隔のアーチ梁間に2台ずつ片側16台計32台設置している。

（資料提供 東芝ライテック(株)）

## 中国地区普及活動報告



### ① 照明講演会

さる5月23日山口県小郡町で、小泉産業(株)の田中信代課長を講師にお招きし、「インテリアの配色と照明効果」という演題で照明講演会を開催した。

参加者は電気・建設・照明関係者など約80名で、参加者から「照明の色温度と演出の関係がよくわかった」「コンピューターグラフィックスによるシミュレーションのスライドで理解しやすかった」など大変好評であった。

今後もニーズにあった事業を企画していきたい。

### ② 鉄塔のライトアップ試験点灯への参加

広島港の海田大橋に隣接する中国電力(株)の送電鉄塔のライトアップが、4月25日試験点灯され、関係者と共にモニターとして参加した。

参加者は、種々の点灯パターンでカラーが切り替わるたびに、アンケート用紙にその評価と総合的な意見・感想を記入したが、モニターとして参加機会の少ない参加者からは大変好評であった。

なお、鉄塔のライトアップは7月20日の「海の記念日」から実施されており、季節によって色を変化させることになっている。

### ③ ライトアップ事例集作成

ライトアップ事例集「新しい都市照明」は、昭和62年11月創刊以来昨年まで第8号を発行しており、中国地区の普及活動として定着している。今年度も多くの方の資料提供と執筆のご協力をいただき、第9号(事例を34件掲載)を12月22日に発行した。

## 超省エネルギー化を図った道路灯自動点灯システム

大分県北部の山間部を走る国道387号院内<sup>いんないく</sup>玖<sup>く</sup>珠<sup>しゅう</sup>道路<sup>だうじ</sup>の日出生大橋<sup>ひしゅうおほし</sup>(全長252m)とそれに続く石飛橋<sup>いしとばし</sup>(全長109m)に、太陽電池・各種センサーを組み合わせた道路照明と情報表示システムが導入された。

このシステムは、車両を感知器とセンサーで感知し、昼間は表示板だけ、夜間は表示板と道路照明を自動点灯制御するもので、道路照明は瞬時点灯可能な500Wハロゲン電球を用い、断芯時に内蔵した予備ランプが自動切替できる装置のある道路灯が、両橋で18基設置されている。

照明の点灯は橋ごとに行なわれ、歩行者が通行する場合は押ボタンスイッチを押すことで点灯し、続けて複数の車両や歩行者が渡っても優先方式の点灯制御が採用されている。

夜間、交通量が急減する過疎地や自然環境への配慮が必要な地域の道路照明として超省エネルギー化を図った自動点灯制御システムである。

(資料提供 小糸工業(株))



## 平成7年度あかりの日街頭キャンペーン

本年度のあかりの日街頭PRは、10月21日が土曜日であったことから前月の10月20日（金）に全国10地区で一斉に行われた。電球の配布は、

東北地区、九州地区の自主調達分を含め、全国で26,500個となった。



東北地区



四国地区



東京地区



九州地区



関西地区



沖縄地区

## 第15回「あかりの日」小学生手作りスタンドコンテストの実施について

本年度の「あかりの日」は第15回の節目を迎えたことから、毎年行っている街頭PRに加え、新たに小学生「手作りスタンドコンテスト」を実施した。

次世代を担う小学生を対象に、照明への関心を高めてもらうことを目的に、夏休みを使って楽しい工作を通じ、あかりや電気に興味を持っ

てもらおうと考えた。

募集にあたっては、工作用基本セット（電球40W、スイッチ付コード、ソケット）500組を用意し、「朝日小学生新聞」に広告を掲載したところ、全国各地の小学生より451名の申し込みがあり、出来上がった作品のコンテストの応募は123点あった。



受賞者と各団体関係者



入賞作品

審査は写真による第1次審査で22点を選出し、第2次審査ではその22点の作品を取り寄せ、最優秀賞1点、メルヘン賞、アート賞、はつらつ賞、びっくり賞、の各賞及びその他の作品を選と決定した。

10/19～24までの間、これらの優れた作品と応募作品全数の写真を、東京渋谷の「電力館」で展示を行い、10/21「あかりの日」に各賞の表彰を行った。

「電力館」展示会場への来場者は、826名と盛会で、表彰式当日は受賞者とその家族、照明業界関係者、報道関係の取材で賑わいを極めた。

表彰式は、主催4団体関係者の出席のもと、「あかりの日」委員会伊東委員長から審査経過及び選評の発表が行われ、最優秀賞には大矢敏弘くん（東京都2年生）の「カブトとクワガタの木」、メルヘン賞・高岡智美さん（東京都6年生）「プラネタリウム」、アート賞・能代ありささん（埼玉県2年生）「星のジャングルジム」、はつらつ賞・森祐一くん（千葉県4年生）「花火のスタンド」、びっくり賞・橋爪武尊くん（福岡県2年生）「恐竜ガォーン！」の各賞に対し、表彰状、記念メダルと副賞が手渡された。